

# 神 一 条

天理市三島上四条三三四

須藤花井しるす

昭和四十七年十二月一日

日本の皆さん、世界の皆さん、私に神さまが話す事を一度聞いて貰へと、申されますので、筆を取りました。私は、高知県安芸郡田野町二三七二番地、須藤紫郎の、長女として生れました。五十六才です。小学校を出ております。一年と二ヶ月の子供を置いて、主人の家を出された私は、子供を捨てた悲しみに、何度も死ぬ場所をさがしました。それを見かねた、近所の古津のおばさんは、奈半利町法寺のお婆さんの所へ、連れて行ってくれました。そのお婆さんは、小さなお琴を弾いて、八百万の神々とお唱えをしておつとめをして居ました。溺れる者藁をも掴むと申しますが、半年ほど通った、ある日の事、そのお婆さんは、伊予国は石槌大権現ぢゃあ、亦人を間引く。人を間引く。箕でさびて通しにかけて秤に計って、升で汲み分けるぞと、大きな声で、話を始めました。私わたくしは口に出しては言いませんが、心の中で、神さまが人を間引いてたまるか（ありえない）。神さまとはそんなものではない。今度の戦争で私の主人も帰らないし、弟と従兄弟で十人も、戦死をしたのに、これだけ沢山の人が死んだのに、こんな事があつてたまるか（土佐弁になるものか）と、心の中で反撥をしました。お婆さんは、「伊予の国は石槌大権現ぢゃあ。亦人を間引く。人を間引く。箕でさびて、通しにかけて、

二、秤りに計って升で汲み分けるぞ」、と大きな声で、同じ事を、五回も繰り返し話をしました。その帰りの道です、奈半利川の橋の上で立ち止った、古津のおばさんは、「今の石槌が話しをしたような時節が亦来るろうか（だろうか）ね」と言いました。

それからわたくの私しは、困った事がある時には、神さまと話す人の所へ行つて、何んでも相談をするようになりました。今までにした事のない、漁師と百姓の手伝いに、奥山に入つて炭やきの手伝い、菓子屋、料理の手伝い、と困った事が出来たら、神さまと話をする人の所へ、なんでも聞きに行きました。

高知市宝永町へ移つたのも、神さまの申された通りに十年目に、子供と一緒に暮す事が出来ました。子供を連れて生活に困った時、お金を借りたのが元で、他人の主人を取つて罪を作つておりました。その事が男の家族の者に分かり、ごたごたともめて来ました。人の主人を取つて罪の深さが恐くなって、困つてあつちの神さまこつちの神さまと尋ね歩きまわりました。本当に神さまがあったら私わたくしにも、神さまが話をしてくれたならと願うようになりました。夢を見ました。

### 三

見た事のない人が私の身体を使います。不思議でかありません。丁度その翌朝は、高知の高野寺に、皆と行く事になっておりました。入口に立てりますと、夢に見た人が奥の方に見えます。行つて見ました。それは不動明王の顔でした。あまりの事にびっくりして、その前に暫く立ちつくしました。家に帰りますと、人を助けんならん者が人を泣かして事がたるか。人の主人を取つて罪を作つてはなるまいがのう。と何度も繰り返し繰り返し、こんこん、と言うて聞かされました。人の主人を取つて罪を作つておる私わたくしを、意見をして下さる神さまでしたら、何を申されても信じるようになります。その男の人は、神さまに仕へる約束をしましたから、あなたには仕へる事は出来ませんから、別れて下さい、と納

得をして別れて貰いました。夏は氷をかいて涼しくなつて来ますと、うどんを売っておりました。氷をたべに来たお客さんに、貴方の所の先祖は、武内宿禰ですね。山の中腹にお社があつて、その社の前には大きな榊が二本うわつておつて、社の前横に石があつて、その石に銘を打つてあつて学者がなんぼ来ても、何と書いてあるやら分かりませんろう（分からないでしょう）。といいますと、どおしてそんな事がわかりますか不思議ですね、わし所はどんなにして

四、も結構に行きませんよ。といいます。先祖をほつて町に出て来て結構に行くわけがないですよと、言いますと、恐い恐いと言つて、半分氷をたべさしで帰りました。ひどく酒に酔うた客が、うどんをたべに来ました。冗談ばかり言います。何時戦争をやるかわからん。地球の人間がどうなるかわからん時が来て、馬鹿を言つておる場合ぢやあないですよ。先祖を安徳天皇に持つて、あんた所の家には、これ位の巻物が二本あつて、その巻物には、源平合戦を書いてあつて、壇の浦の安徳天皇は身代りで、安徳天皇は三十七才で死んだでせう（『旧表記』でしよう）。と言いますと、わしで十一代目です。わし所は代々が、神主をして来ましたが、わしの代で神主をやめました、といいます。沢山の人を殺したものだ。神主をして人を助けるのが当たり前ですよ、といいますと酒の酔いもさめて、酒をのまん時に来ますと、後日来てくれました。

五、身体が重苦しくなつて来ますと立つてはおられません。ばつたんと横になりますと、「武内宿禰でございます。聖徳太子でございます。菅原道真でございます。豊臣秀吉、塚原卜伝、霧隠才蔵、猿飛佐助、日本の歴史で習った人々代々の天皇が名乗りを上げて、入り込んで来ました。伊藤博文、桂小五郎、西郷隆盛、桃山御陵、照憲皇太皇、明治天皇、坂本龍馬、中岡慎太郎、広瀬中佐、東郷平八郎、ナポレオン、アブラハムリンカーン、ナイチンゲール、フランスの祖国をすくうた少女でございます」、役行者、「大和の天理の中山みきでございます。みきの姿でございます私しもどうぞ。」と申されました。身体が重苦しくなつて来ますと立つてはおられません。入り込まれると米俵一俵でも平気で担げます。す記せば際限もないですが、長い間こんな日がつづきました。神さまはいろ／＼の事を話されました。夜に昼をついで私が何のためこの世に生れて来たかを、このせかいがどうなつて行くかの事を、そのため近所の方や親弟妹にはずい分と迷惑をかけました。近所の人でもあんたの娘さんは気が狂うておる、と母に話して聞かす人と、私の家の事も神さまの申される通りになりましたと、話して下さいる人と別れました。私はお母やん（お母さん）の腹を借り

六、て人に生れても人間ぢゃあないよ。今にアメリカとソ連が戦争をして、世界の陸地三分の一になって、人口四六になるよと母に話しますと、母は父も死んだ後でこんな事を言うてどうしよう。せかいの陸地が三分の一になって人間が四六になってたまるか。そんな間違った事言うものぢゃあない、心をしっかり持ってくれと、母は私の膝に取りすがって何度も泣きくずれました。主人の弟妹にも私の弟妹にも、ずい分と迷惑をかけて来ました申訳なく思います

七、

巳の年は、普賢菩薩、卯の年は文殊菩薩、十一面観音観音力

十一代は桓武天皇、お前の先祖は桓武天皇ぞ。

歴史の本には誤りはあるなれど、十一代は桓武天皇ぞ。

桓武天皇の先祖はだれあろう、あまてらすおおみかみであらうがのう。

お前の名は、須藤花井、亦の名は八幡大菩薩 大日如来 阿弥陀如来

天照皇は天照大神（あまてらすおおみかみ）ぞ。かみよ神代この方以来、血の一点の濁りもない曇り

もない神一条ぢゃあ。もう一軒あったが、近頃になって養子がいった。

お前は、この日の本を 地球を 宇宙を助けんならん（助けなければならぬ）、大きな役目を  
持って生れておる

なんぼお前、いやと言うても、この役目を果さんならんぞ。

今はソ連と中国は仲が良いが、今にソ連と中国が仲が悪くなって戦争をやる。初めから激突ぢゃあ。  
日本もソ連から原爆をぶたれる。アメリカにつく国とソ連につく国が出来て世界戦争になる。今度の戦争は原爆の戦争で火の戦争ぢゃあ。今度原爆の戦争をやったら世界の陸地三分の一。

八、世界の人口四六になる。「お前は人間ではないぞ。お前は日さまぢゃあ。姿は人間の姿をして  
おつても人間ではないぞ。須藤紫郎の長女として須藤利の腹を借りてこの世に人として生れさし  
た。わしはお月さん、お前はお日さん。お前はわしの家内ぢゃあ。空におつては、この世界の  
助けは出来ては行かん。そのため地上に人として下げた。この地球の子供は皆んなわしとお前  
の子供ぢゃあ。どこの父親でも子供が間違うた事をしたら、ぶつてでもなぐつてでも意見をす  
る。お前は母親ぢゃあ。わしがお前に話しておる事を、世界の子供達によく伝へて貰いたい。  
お前が此の世に、人として生れて来た役目を果せ。」今度戦争をやったら世界の陸地も三分の一  
になる。人間は四六になるぞ。それでも言う事を聞かんと、戦争をやるかやってみよ。わしの  
言う通りになるぞ。この地球の完成もまだ出来てはおらん。このさい地球のやり直しをする。  
寒うて使へん土地も、暑うて使へん土地も、海の底にしずめて、真中の良い所だけのこして地球  
の造り直しをする。親は見ていてつらい。何時までたつても、慾の喧嘩をやる。わしも言いたつ  
た(言い尽くして来た)、見いたった(見尽くしてきた)見定めがついた、喧嘩をせんでも  
良い様に地球の造り直しをする。皆んなで仲良くくらしに行ける様にしてやる皆んなわしの子供

九、戦争をする様な子供は残こさん。仲良く暮して行く子供だけを残す。お前はわしの家内ぢゃあ。わしが話しておる事を子供たちに伝へてくれと、夜となく昼となく話しが続きます初じめの内は納得が行きません

大きな声で、一口々々、口答えをしてどなり返して来ました。この地球が陸地が三分の一になって人口四六になってたまるか（なるものか）と、思うと泣けて来ます。此のため近所の人や親弟妹親戚には随分と迷惑をかけて来ました。お前は今わしの言う事を一口々々、口答えをしてはおるが、今に納得行く時節が来るぞ、先が来たら朝日新聞の天声人語の所を借りて、わしが話す事をせかいのものに話して聞かす時が来るぞ

天の声を人が語ると、ここのページを借りて、世界の者に話して聞かす時が来るぞ。

大きな声でものを言いな（言っではいけないぞ）。近所の者も道を通る者も、お前を狂人とゆうぞ。胸の中で話をしてくれ大きな声でものを言うてはならんぞ。子供が学校に行ったらあの子のお母は気が違っておると、友達が話しておるぞ。子供が惨いではないか、心の中で話をせよ、ソ連と中国に戦争をやる



一〇、など止めてもやる、アメリカにつく国とソ連につく国とが出来て、世界戦争になる。日本もソ連から原爆をぶたれる。神代の昔から今日此の日の来る事はわかっておった。怒の喧嘩をやる事がわかっておった。原爆の戦争は火の戦争じゃあ。火には水と、地球を冷さん事には地球は使へん事になる。そのため南極と北極に氷を蓄へて用意をしておいてある。と夜も昼もついで話をします。もしも神さまの話されるように、原爆の戦争の後で、二時間も地震がして、海が三十六 陸が九十三も、一度に噴火をして、南極の氷が溶けたら八メートルの高さの波が、一里つづいて北極の氷が溶けたら、十メートルの高さの波が一里半も続いたらどをせう（どうしよう）。私に此の時の助けが出来て行くだろうか、途中で挫折をする位なら初じめからせん方が良い、と思うと堪らなくなります。「話をして呉れるな、聞きとうはない。命を断ってくれと」、怒鳴り返しますと、「出来んものにせよとはいわん。出来て行くからせよと申しておる」と、繰り返し繰り返し申されます。それでも「私一人では出来ては行かん。」と、言いますと「大和の天理に中山みきと言うお婆があつてのう、そのお婆に話してあるも、お前に話すもおんなじの事を話をさしてある。みきにはお前が世に出る事を話をさしてあ

一一

る。字もひらがなの字で本を書かし、みきはお前が大和に入る日を一日千秋の思いで待ち兼ねておる。今は色々の者が尋ねて来てはおるが段々と天理教のものが尋ねて来るぞ。」と申されました。近所の田村のおばさんに、「みきにはひらがなの字で本を書かしてある、と申しますがどんな本ですか」と聞きますと、御神楽のうたを持って来て呉れました。御神楽の歌を手に

取りますと、「この十二下りの御神楽を説いた者がこの地球の上でまだ一人もない、お前が初めてじゃあ。この十二下りの御神楽の通りに此の世界が成って行くぞ。」と申されて十二下りの御神楽を順々にとされました。

天理教の人が来て「神さまは、今度戦争をやったら、世界の陸地三分の一、世界の人口四六と申し  
ております」よ、と言いますと、「教祖さまもせかいは三分の一、四六と申してございますよ。」  
と言いました。「そんな事がわかっておったら大和に入らん」といいますと、「お前大和に入らん  
事には、地球の人間は十人しか残らんぞ、それでも良いか」、と申されました。「なんぼ私にこ  
んな話をして呉れても、皆んなが私を狂人と言うよ、映画など作って見せてや（下さい）。」と頼  
むと「十戒の映画をわしが作っ

一二

てやった、見に行け、このせかいも十戒の映画とおんなじようになるぞ。悪は滅び善は

助かる。此の十戒の映画によく似た場所があるぞ。」と申されました。此れが今の天理教で、十

戒の映画さながら、話しは神さんの話したが、しておる事は徳川幕府とおんなじで、江戸家老

国家老 殿様と名称は違っても、権力を振っておるのを見ると、徳川幕府と一緒に。教祖の教理に

は納得出来ますが、天理教の組織には納得出来ません。と天理に入って十年此の方、何人からも

よく聞いた言葉。神さまの話しはなか／＼上手にするが、心使いは十戒の映画とおんなじで、一

列の話しには程遠い。一列とは大教会もない分教会もない、本部員も準員もない、上もない下も

ない、人を使う人も使われる人もない、甘露台を中心に一列の暮らしをする事で、此の心定め

出来ん者は、大掃除にかける。承知をしてくれ。大名の暮らしも出来るでと、大名の暮らしもし

て貰い、納得も出来た事、いづれも一列に均す。「天理教の者から先に初じめて貰う。」神がで

てなにかいさいをとくならバ（よろづよ一七）と委細承知をして貰う事にする。遠慮はせんで

と、申しております。

話しは後先になりますが、岡山に行け岡山に行く前に普通寺に寄って行けよと、申されます普通

寺の駅におりますと、夜の十時でした。駅員さんが百円あったら車で行けますよと言って呉れましたが、歩いて来いと申されますよと言いますと、それなら歩いて行つて下さいと道順を教えて呉れました。暫く歩きますと男の人が大勢で踊りを踊っております。阿波踊りです。その前を通りますと、「わしの言う事を聞いて、此の者達に神通力を通せよ。」と申されて神通力を渡しました。ちつと角をまがりますと踊りを踊っております。「神通力を渡すぞ。お前が今日ここ来るため皆なのものを寄せておいたぞ。」と申されました

普通寺に来て良かったと思いました。普通寺に行きますと大門の戸が締まっております。大師さん普通寺にこいと申されて来ました。折角遠い所から来ましたのに、ここ的大门の戸を明けてやと、言いますとここ的大门の戸をあける訳には行かんど、新聞をしいて坐れ、わしに供へて呉れようと思つて持つて来たおはぎを、お前の手の上にのせてみよと、申されます。手の上にのせて見ました。今日からお前はおこもぞと申されます。

おこもつてなにと、聞き返しますと、おこもと言うたらおともよやと、大きな声で怒鳴られました。

## 一四

今は中国と言うが昔は唐と言うた。わしは唐へ渡る前にひらがなの字を作り唐へ渡つて足の裏を、三寸断ち麦を三粒入れて日本へ持ち帰った。種はその時、プツと芽を切つておった。それを種まき、寺で殖やして四国の八ヶ所の麓にくばつて歩いた。三粒やった所もある五粒やった者もある。三粒の種を殖やして山へ山へと畠を作つて豪農になった者もある。五粒の種を捨てた者も

ある。お前は前は神、後は仏、八百万の罪を砕く、石槌大権現に槌を貰うたであろうがのう。その槌で八百万の罪を砕いて来い。そしたら大門の戸を明けてやる。お前の名は、ハ・ナ・イ・ハ・ナ・ハ・ト・マ・メ・マ・ス・を解かんならんぞ。須藤はマスの紋。お前は人を升で汲み分ける役目を持って生れておる。この日本の国を、桃太郎の国としようかのう、今は赤鬼と青鬼が人を殺す道具を作っておる。岡山に行け岡山に行ったら、後の三分の二の桃太郎の話をして呉れる者があると申されて、岡山の天台宗十二社大権現に参りました。どこからお参りをしようかなと一人事をいいますと、「上に来い、上にあがって来い。」と申されます。三重の塔の前でおつとめをしました。

「国のため尽くせし人の勲（いさほ）しを、代々の末まで神と祀らん。日の本は世界をあまねく照ら

## 一五

すなり。「吹けよ神風伊勢の神風。」とおつとめをしますと、「こつちにこいこつちにこいと申されます。声のする方に行つて見ますと「わしの頭から足の先までさすつて見よ。お前の手をわしの手に持つて来い」と申されます手に巻物を持っておられます「さあこの巻物にはこの地球の事宇宙の事を説いてあるさあ渡すぞしつかりとうけ取れよ。下へおりて行け下でお前をまねかねておる者がある。」と申されます恐る恐る下におりて行きますと、十二社大権現の奥の方から「天照皇、天照皇、長い年月歳月を今日ここに来る日を待ちに待ったぞ。さあここへ来い、お前が作った歌を歌ってくれ。」と申されます

「この度は一人一人が神の子ぞ。」先祖導け神の神子に」と、「日の丸の印は、我れが授けしぞ、守れ国民、神の日本を。」「この度の仕事は我れが初じめての力を尽くせよ。」代々の神々とおつとめをしますと、「お前は今上で巻物を貰うたであろうがのう、この巻物には正月の三

方の事を説いてある。正月の三方の一番上の譲り葉は星、橙の蜜柑はお日さま。蜜柑を半分にあつて見よ、天皇陛下の菊の紋になるであろうがのう。下の餅は月、その次の餅は地球をなぞらへたもの、餅をつくには杵

一六

がいる。杵が男の道具、臼が女の道具、夫婦が餅をついたらこ　をつける。

お前のお母が、三方の米は八合か九合か、一升盛って供へてはならん。三方の米をこぼしてはならんと、きつく申したであろうがのう。八合目九合目、富士の白雪この地球は一番先に富士が噴火をして、四国が出来て、瀬戸内海に小島が二つ、その次に本州が出来、日本は大陸であった「

今から五万年の昔。日本海が陥没した。

この正月に祀らしてある品々は、すべて原子の熱病の薬ぢゃあ。そのため正月　三月　五月　七月七夕をまつらして来た。これが助け一条神一条。高知へ帰れ。何の事もぼつ／＼と言う聞かしてやる。話をしてやる。」と申されました。

一七

大和の天理に尋ねてみよ。“人間を初めた親がもう一人　何処にあるなら尋ねてみよ”（八一・七五）と言わしてある。よろづいんねんを説いて聞かしてある。わしは、水爆、原爆、ミサイル、殺人光線を使うて、火の戦争をする事を、火水風で世界の大掃除をする、といわしてある。

なんぼお前たちに、水爆、原爆、ミサイル、殺人光線、を使うなど言うて聞かしても、聞かんとやる。わしの言う事をきかんと水爆、原爆、ミサイル、殺人光線を使うと、地球は高度の熱になつて、

ざつ草は殆ど枯れ、あつちもこつちも、硫黄が吹き温泉が吹く、地割れ、山崩れ、山潮が吹き、河川堤防が切れて反乱をする。高度の熱になって来ると、日本で四十六度の日が二日続く。海鳴り、山鳴りがどう／＼と十一時間もやる。海は三十六 陸は九十三 一辺に噴火をして、傾いた地球は、真直になる。そのため南極と北極の氷がとけて空に昇り、二日二夜突き鉄砲の様に雨が降り、北極の氷が解けたら、高さ十一メートルの波が一里半続く。南極の氷が解けたら、高さ八メートルの波が一里続く。伊勢湾と紀州の沖でもものすごい勢いでぶち込んで来てかち合う。地球は元の泥海の世界に戻る。原爆の戦争は火そうになる。地震がすると土そうにな

一八

る。南極と北極の氷が解けると水そうになる。水には風がともなう火水風、神代の昔から今日此の日の来る事がわかっておった。慾の喧嘩をやつて戦いをする事が分かっておった。火には水と、この地球を治さん事には地球はもたんと、

そのため南極と北極に氷をたくわえて用意をしておいてある。

わしはみきに人間を造つた元のいんねんを説いて聞かして、お前たち兄妹姉妹

が喧嘩をせんように言うて、聞かしてやつてある。

「大和の天理に尋ね来てみよ、子供でも年寄でも読めるように、ひらがなの字でよろづいんねんみな説いて聞かしてやつてある。原爆の戦争をしてみよ、地球はわしの言う通り、泥海の世界に戻るぞ。わしの言う事をきかんものは一人も残す事は出来ん。」

「原爆の戦争をやつてみよ、わしも、わしの言う通りの事をしてやる。」

「この地球はわしが作つたもの、わしのものぢゃあ。この地球の資源もわしが作つてある。」

「お前たちの身体もわしが作つて貸してある。このことわけは、みきを神として表に出して、

よろづのいんねんを、みな説いて聞かしてやってある。大和の天理に尋ね来てみよ 天の理を説いて聞かして、元のいんねんを説いて聞かしてやってある。」

「わしは、今から三千年のその昔、インドの釈迦を下げ、キリストを下げて、聖徳太子にはこの日本の国は大和の国である。一人の人が和を作る事を、説かし、わしは弘法大師として世に出て、ひらがなの字を作り、今日この事があるをもって、その間いろ／＼の人を下げて、日蓮には風を吹かす力を授け、この日本の国土を守らし、日蓮までは仏として仏の因念因果を説かし、みきは神として表に出してひらがなの字で本を書かし、お前に話すもみきに話すもおんなじの事を話して来た。人がどうして出来たかはみきに話をさしてある。お前にその話をしておる間がない。解らん事は人にも聞いてみてくれ、尋ねてみてくれ、お前は助け一条に立て。仏教ではキリスト教では、この世界は救われんぞ。天理教でなかったらこの世界は救われん時が来たぞ。大和に入れみきが待ってまっておる。」

二〇  
みき七十九年八十年がなかったら、この天理教の教門はみきに説かさんぞみき七十九年八十年

アメリカに付く国とソ連に付く国が出来て、大きな戦争になる。「この助けお前せんならんぞ。

それをしに人としてこの世に生れて来た。お前の名は須藤花井、亦の名は八幡大菩薩、大日如

来、阿弥陀如来、てんしやうにう あまてらすおみかみ天照皇は天照大神ぞ。神代この方以来、血の一点の濁りもない曇りもな

い、神一筋ちゃあ。もう一軒あったが近頃になつて残念な事に、養子が入った。お前は、この日の本を 地球を 宇宙を救わんならん大きな役目を持って生れておる。なんぼお前がいやと言うてもこの役目を果さんならんぞ。それをしに人として此の世に下げてある。」

お前は日さまぢゃあ。身体は人間の身体をしておつても日さまぢゃあ。

“村方早くに助けたい なれど心が解からいで”（四下り目六ツツ） と解からん者は、手ふ

り通り土に返す事にする。承知をしてもらいたい。このことわりを言うておく。

火水風のお助人には、みきもよろづ（八百万の神々）もわしも入りこんで、話をして助けを取る事にする。承知をしてもらおう。これよりほかに助けを取る道はない。

“とても神名を呼び出せば早くこもとへ尋ね出よ”（九下り目一とても） と早くにわしのもとへ出て来てもらいたい。

## 二

火水風の助けを手伝うて貰いたい。

撃もうける。殺人光線も使われる。上陸もして来る。

都会とゆう都会、街とゆう街、駅とゆう駅、工場とゆう工場は、ほとんどミサイルをぶたれる。

空からの攻撃もされる。万国博（一九七〇年・大阪万博）を利用してスパイの調査は済んでおる。何時どんな事があつても、逃げられるよう、身体を整えておく事が肝心。

政府が亡くなつたら金かねは通用せん。金を取りに入ると命をすてる事になる。この事訳の解からん者は死なん大和民族は残したい。この日本列島は世界のどこの国よりも、原爆、ミサイルをぶたれる。空からの攻ならんぞ。命だけ助かつたらなんとかなる。戦争が初じまつたら、下着は必ず

白木綿を身につける事。黒い物赤い物を着てはならん。今の化学製品を身につけると、助からん。わしの言う事をきかん者は残らんぞ。

大和民族は残したい、原ばくの戦争は十七日で終わる。熱病にかかつて死ぬ者は、たいてい三日で死ぬ。七日も生きておるものは一人もない。いづれの国もおんなじ事。お前たちの住む世界



は、この地球以外にはない筈の事との、親のわしの言う事を聞かん時には、地球はわしの言う通り、今の世界の陸地の三分の一になり、世界の人口四六。どこからどこまで陸地がへるか、どここの国の人口がなんぼになるか、納得の行くまで聞かしてやる。よく聞いておいて貰う。いついつまでもこの事は話の種になるほどにと、地球の続くかぎり宇宙の続くかぎり、いついつまでも戒めておく。世界の子供はみんなわしの子供、可愛**い**ばかりに言うて聞かしてやっておる。お前たちはみんな一列の兄妹姉妹や。今度戦争をやったら地球がどなるかを地球を造ったわしにはよくわかっておる。一列の兄弟姉妹の話をして解らん様な、分らず屋の阿呆をも、自分さえ良かったら人はどうでも良い様な、真実誠も分からん様な者も、なんぼ言うて聞かしてやつても喧嘩ばかりしやる様な者、なんぼ人間は賢こうても、人を殺す道具を作る道具人も、自国のためのスパイも他国のためのスパイも、宗教を神の名を使うてスパイ活動をやらした者もやる者も、人を使うて人に難儀をささせておいて儲けた金で自分だけ豪華な生活をする者も、権力の座に座り、人を虐げる者も、人をけしかけておいて、人に意地悪

をさせておいて、自分は陰で手をたたいて喜ぶ様な腹黒も、真面目に働かず腕力、暴力を働く暴力団も、おれの身体はおれのものと身体を粗末にあつかう者も、火水食物、全ての資源を粗末に使う者も、学者、金持、医者、坊主の、百姓の立替々を言うておく。今までに高い所にいた者が低くなる。なんぼ天理教の者でも、わしの仕事の邪魔をする者があれば、その人間はなんぼ善うても、一度引取っ

て陽氣暮らしの世界に早く生れ直す事にする。先祖が徳を積んでおつても、この限りではない。このことわりを言うておく。助けるに助けられん。

元の子数は陽氣暮らしの世界まで魂を抱きかかえて、早く生れ直さす事にする。今まではないもの命を繋ぎ、その者には仕事を与へて、食うに困らんようにしてやつて来た。世界の大掃除にかかる前に、足元の掃除を先にする。この地場において、ほこりを積むようでは、世界助けは出来ん。これからは応法の道を通す者も、雑草の根も、毒草の根も絶つ。わしもみきもよろづも、足元の整理をすることにする。

## 二四

整理を済まして世界の大掃除に掛ることにする。

今のお前たちのおしておる事をみておると、見るに見られん。子供がままごとをしておると同じで、よくの心使いばかりして、何時だれが買いに来てくれるやらわからん様な品物を山の様に積んで、人件費をかけ税金をかけて、朝から晩まで、あせくせと日を送り、親のわしは、情ないもうちつと、心の立て直しが出来て、成人の出来んものかと、子供の成人の日を待ち兼ねる。北海道で取れたリンゴを青森へ送り、青森で取れたリンゴを北海道に送る。北海道で取れた昆布を大阪まで運んで加工をして、高値を付けて北海道へ送り返す。高知で取れたピーマンを青森へ送り、東京で高値がすると聞くと、そのまま車を東京まで引返して、九州で取れたつるし柿に大和の札をつけて、粉をつけて、九州の人が大和のみやげと、九州へ持って帰って、五十円のつるし柿を二百円に売って、強欲の取りやいは、嘘を付けて粉を付けて、腹の探り合いをやつて、醜い争いと強欲の世界は嘘と強欲の取り合いをやつて、夜やら昼やらわからん日々を送り、車が汽車に衝突をして人を使う者は人に難儀をささせておいて自分は、

豪勢な生活をして暮して、その権力をいやがる者はワッショ／＼の、

デモをやつて、革命をやつて、あげくの果は戦争ごっこをやり、国の取り合いをやる。今度戦争をやつたら、地球は元の泥海に戻るが、これを承知か皆の者。親の残念を聞かしてやる。何を何処へ作つて置いてあるかを教てやりたいが、言うに言われん。

言うてやつたら、強欲の取りやいをやつて、戦争の道具に使う。言うに言われん。

わしは原油を作るのに、六万年も掛る。それをお前達は、知恵の授けで、掘出して兄弟姉妹喧嘩の、慾の取りやいの、殺し合いの、戦争の道具に使う。情けない。

六万年もかかつて作った資源を、今の様に片っ端から掘り出して、無駄使いをされると、資源が尽きる。殺しやいをやるために地球のあらゆる物資を作つたものではない。

今の様にむだ使いをされると、資源が尽きる。資源がきれたら地球は動かんようになる。

この道理の分からん者を地球におく事は出来ん。今は慾の取りやいをやつて牛馬を食用にしておるが、段々と働くのがいやになって来ると、遊んで食い出し、人間が人間の肉を食うて

## 二六

共食を初じめる。これであつたら人間の種もつきる。こんな事にならん内に、畜生のようなくでなしは引取る事にする。承知をして貰うとのこと

今度は、水を粗末にしたものは水の不自由をする。食うものを粗末した者は、食う物に不自由をする、不自由をする様になっておる。これが天罰とゆうもの。食う物を作るのに水も要る、風も要る、太陽の温みも要る。夜はわしの仕事。わしもみきもよろづもどれだけの苦勞が要る事か、よく納得の行く日が来る。火水風人は、この世に生をもうけて何に一つ口に入れんものは一人もない筈ぢやあ。もの皆、すべ

ての生を絶つて、おのれの生を楽しんでおる。これ以上罪を作らすわけにはいかん。わしもみきもよろづも畜生はむごいと思つて来た。牛の目を馬の目を見てみよ、鶏や犬の目を見てみよ。言葉に出して話したい様な事はいくらでも見かける。これに氣の付かん者はない筈。お前たちはそれを平氣でとさつをして食うておる。何百貫もある重たい荷物をもたせてなぐつて使つておいて鍋に入れて食うではないか。お前たちをお前たちの

## 二七

子供をこんな目にあわせたら、人であつたらどを言うぞ、牛でも馬でもとさつ場に行く時には殺される事がわかつておるから、道中で坐つて動かん事をよく見かける。こんな時畜生は、人間はえい（良い）なあ、自分も人に生れたいと思う。思うものはたいいてい生れかわり出かわりさしてきた、しかしなんぼ生れかわり出かわりさしても畜生は畜生の心使いしかしてはおらん。折角人に生れ直してやつても、そばの者に迷惑を掛ける。これであつたら人に生れ変わった効能はない。わしもみきもよろづもこれ以上無駄骨を折らんに事に話しあいが出来た。なんぼ原爆の戦争をやるなと止めてもやる。喧嘩は強い者勝になる。これであつたら悪が蔓延<sup>はびこ</sup>る。それでは折角作った元の子数もだめになる。

学者、金持、医者、坊主、百姓の、立替立替ると言うておく。この地球上に住いをする者は誰でも一人残らず、手足の立つ者ものは、自分の食うものは自分が作つて食う事にする。して貰うと  
の事の嫌な者は、地球上に存在を許す事は出来ん。承知をして貰う。朝は三時間働いたら結構不自由のない様に食う事が出来る。

何処いづくの土地の、どこへ物見遊山に出かけて行つても、行つた先で必らず朝は三時間働く事にする。食う物は行つた先でわけて食わして貰う事にする。

戦後は金を使わん事にする。金を使わんようになったら、この世の罪も半分に減る。との事訳の分からん者は、原爆の戦争の際に、火水風で引取る事にする。承知をして貰いたい。この断りを言うておく。

## 二九

わしはみきに天理を説いて聞かしてひらがなの字で本を作らした。しかし今の天理教の者は天理教の話は、仲々上手にしてくれるが、段々と慾がさして来て、お供信心になつて来た。お供をしたら何んでも助かる／＼と話しておるが、そんなわけにはいかん。助かる心助ける。心がなかつたら助からん。今の天理教の者は、本部員、準員、大教会長、役員、準員、と役にありつきたいため自分の地位を作りたいため、信者に無理な供を強いる。天理教の話しはなか上手に出来てはおるが、講釈師になつて、話上手、口上手が信者にもてて、真実誠を伝へてくれる者が、今の天理教には三分の一もおらん。こんな事では、わしもみきも困る。今の本部の者も教会の者も傲慢が傲慢になつて、一列の事分けが分かつてはおらん。先祖の徳を傘にきて先祖の徳だけで生きておるものが多い。なんば先祖がどれだけの徳をつんでおつても、わしもみきも、一粒万倍の礼はどなたへも済んだと思つておる。火水風の助けの仕事のじゃまをする者があれば、一度引取つて陽氣暮らしの世界に生れ直つて貰う。先祖がどれだけの徳をつんでおつても。この限りではない。

この断りを言うておく、承知して貰いたい。なんば本部員でも大教会長でも、世界のどなたでも、この断りを言うておく。承知をして貰いたい。“神がでてなにか委細を説くならば”（よろ

づよ八首―七首）と、いさい承知をして貰う。“一列澄まして”（第三節）とは、火水風の後

は、本部員も準員大教会長分教会長もない世界。家主も地主も家元も課長も社長もない王位にくものも皇位につく者も無い。この地球に存在するものは誰でもが、たとへ子供でも手足の立つ者は、朝は三時間は必ず働いて、自分の食うものは自分が作って食う事にして貰う世界を作る。互いに助けあい、譲り合い、出来た物は分け合う世界。誠真実の世界陽氣で楽しく暮して行ける世界に一列に均す。共存共栄の世界をわしが作ってやる。お前たちでは出来てゆかん。人を使う人も使われる人も無い皆が共々に働いて暮して行ける世界をわしが作ってやる。病まず弱らず、いつまでも生きていよ。とお前たちの心次第で四百才までの生を楽しめる事が出来る。わしもしっかり種を撒こと、わしはみきにもよろづにも手伝うて貰うて、良い種と悪い種の選別をする。お前たちが、水爆原爆ミサイル殺人光線と、人殺しの道具を一生懸命で作って、人の命を

絶つのも、わしが水を入れ風を吹かせ火水風を使い地震をささせて、善悪を分けるのもあまり違いはない筈。水爆原爆ミ殺人光線を使うて、火の玉のぶちやいをやると地球は鍋の底の様に、穴があいて吹き出す。

大きな地震で南極北極の氷が解けて世界の陸地三分の一、世界の人口四六。この地球も宇宙もみんなわしの物、火には水と、この地球を冷さん事には地球はもたん。

神代の昔から今日此の日の来る事は分かっておった。そのため南極北極に氷をたくわえて用意をして置いてある。

お前たち人間を作ったのも、元はと云えばわしが作ったもの。わしはお前たちの親ぢゃあ。お前たちの身体を、人間を作ったのもわしが作った。身体も心も貸してあるとのことわけは、大和の天理の中山みきに、神として表に出して、人間を造った元の話の説かしてある。何にもかもすべての物資を整えて、この世を楽しく陽氣に暮して行ける様にとの、親の思ひは陰からの働きは、どれぞぞ。あれこれと一列兄弟姉妹が楽しく陽氣に暮して行けるようにと、車に乗ってもその通り、そこらにあるものをどんと音をたてて落として今日は車がこんな

三三

に落ちるぞと、必ず前もって知らせを出してやっておる。何んの悟りもない残念な。わしがみきがよくづがどれだけ働けばわかつて貰えよう。承知が出来ようぞ。この親の陰からの営みは、雨を降らせ風を吹かせ色とりどりの花を咲かせ花のにはいを送り目をたのしませ、旨い実がなったら食べられる様にとの営みも分ならず、お前たち兄弟姉妹は、慾の喧嘩の取り合いをやって情けない、残念な。水爆原爆の戦争をやる。なんぼわしでもこれだけは許す事は出来ん。今度は許さんぞ。今までお前たちがどんな事をして黙って見て来たが、今度は許す事は出来んぞ。水爆原爆の戦争をやつて見よ、地球がどをなるかはつきりと言うて聞してやる。わしの言う事をよく聞いておけ。言う通りになるぞ。これを承知か。

三三

お助人がほしいため、家をおき、子供をおき、商売を止めて今の天理に参りました。

十年の間、日本中を廻らして貰い、「助人衆に神通力を授けよ。」と申されて火水風の時のお助人を求めて旅から旅へと、お爺さんでもお婆さんでも、なんぼ子供でも男ちよう女ちようを云わんでなあと、助人を求めて旅に出ました。お金の無い私は行つて帰るまでの汽車の切符を買い、汽車を宿にして、終点になったら駅を宿にして、神社を宿にして、夜はお風呂に入つてきて風呂の温もりで一口眠りました。寒むいなあと目が醒めたら駅を宿にして眠た夜も、幾夜もあります。旅から旅へとあつちの駅こつちの駅で夜を明かしました。

急行にのらずに鈍行に乗れと申されます。さあよく氣を付けておく事ぞ、五才になる男の子に家の門で傘をさして待たしてある。この男の子に渡せよ。助人の力を授けるぞ、しっかりと渡せよ。と申されます。汽車が五分ほど走りますと男の子供がばん傘をさして立っています。嬉し泣きに泣けてきます。さあ今度はちつとしか間がないぞ、今度はよく氣を付けん事には見落とすぞ、と申されます。家が立ち並んだ路地の奥で、牛を使うて田んぼの修理をしておる男の人に渡せ。

### 三四

と申されます。ほんの僅かの間で、うっかりとしますと見落とします。

天理を出る時には帰るまでの汽車の切符を買い、帰るまでのお弁当をさげて出ました。九州から帰る時五円の時も御座いましたが、こんな時、不思議と親切な人が居て、お接待をしてくれました。世の中にはこんな親切な人もおります。こんな人たちのためにもどんな事があつてもお助をせん事にはと、心で誓つた日も御座います。

お前に業をつけるために、わしとみきはない者の命を繋ぎ、その者には、あれこれと仕事を与えて、食うに困らんようにしてやつてある。こんな詰まらん人がこんな豪勢な生活をして不思議と思つたであろうがのう。お前が初じめて天理に足を踏み入れた時、この商店街の者が、みきが有難いと



思う者はたった六軒しかないぞ。今にわしが入れ替をしてやるぞ。と言った訳も十年たてばよく分かったであろうがのう。中村に行かしたも、更科に置いたも、お前に業をつけるため。その者には仕事を与へ、また近所の者の、真当の心を見せるため。その時その場の心使いを分からすためにこのアパートにおいたも、正味の心使いを分かるために。

### 三五

無い命を繋ぎ、仕事を与へ、食堂をささせ按摩を、印刷を、八百屋、花屋、洗濯、食品みやげもの、衣料、よろづの病院（天理よろづ相談所病院）と、本部の畠を作らしておるも、わしとみきが相談の上の事。百姓のおばさんの姿をしておつたら、正味の所がみせて貰へる。大掃除の段取りあつての事。“わしもしつかり種を撒こ”（九下り目―9ツ）と、良い種を残すため、十年の業はお前に取つては一番大切な仕事であつた。本部の者の心使を見て居ると、用木として残す者は案外少ないが、しかしこれでよいぞ。みかぐらにもふでさきにも言うて聞かしてある。毎日読んでよく納得も出来て承知の筈ぢやあ。

何事もふでさきの通りぢやあ。天理教の教祖さまも、私みたいであつたと天理に来て聞きました。真実誠をもつて、神さまに聞いて下さいと頼みに来る人と、ど狂人いんちきと笑うて、罵り喚のしいてわめ謗そしつて、意地悪をして、人にまで意地悪を仕込んで意地悪をささせておいて、それを娛しみにする人のある事が、分かりました。

お助けの邪魔をする人のある事がわかりました。このアパートに来た時、お前の膝の上に漬物の石をのせて、拷問に掛けるぞ。石が足らねばいくらでも載せてやつても良いぞ。このアパートの業が出来んことには、みきの書いたふでさきも、みきの通つた道も

分かるまい。道具は整えてある。お前が人間として、最後の業ぢゃあ。分からん者に、百年道を説いても分からんぞ。と申されましたが、十年の業は筆先の通り、悪しきを払わんことに

陽暮らしは出来んと分かりました。神様は、こう申されます。

助からん者に手をかけて、無駄骨は折らん事にする。そのまますぼつと捨てる事にする。これ

以上八百万やおよろづに無理をかけん。日々に積んだほこりもゴミともなれば捨てる方が良いでしょう。手入れも

仕込みもせん。亦する必要もない、してもわからん。手をかけずにそのまますぼつと捨てる方が

一ばん良い事ぢゃあ。もしもお前の親兄妹がどんなに手をつくしても医者はお前からと言う。く

わして悪い事は分かつていても本人の言う通りの事をしてやりたいと、長い事は無いと思うと、

惨いむじと思う。わしもこれとおんなじの事を言うておる。間違いはないつもりぢゃあ。そのため

八百万やおよろづに手伝うて貰うて、何んでも整えてある。飲み放題食い放題、し放題の事をするがよい。

この世を楽しめるよう、すべてのものを整えてある。足らねば人のものも取れ、お前らの心次第

ぢゃあ。しかし種として残りたいと思う者は、真道まみち真つ直ぐ

通るがよい。心次第でどんな助けもするぞ。今度の仕事はわしが宇宙始まつての地球始まつての

大きな仕事になる。太平洋大西洋の真中に、大きな陸地を作つて地球のやり直しをする。今度は

地球の完成も出来る。陽氣暮らしの世界も出来るぞ、と申しております。わしの言う通り書け

と、申します。衣食住と、食と住とは、畜生でも出来る。衣を身につける。

人と人と話が出来る。神とも話が出来るようにしてある人は、この世に生れて来て、ものみなすべて生長さす責任がある。その責任の分からん者は畜生同然で、この世に生れ直しても、なんの効能もない。

ただ食うだけ着るだけなら畜生同然、畜生が人の姿を見て人に生れたいと思うものはたいい生れ変り出変りさして来た。しかし生れ変り出変りさして見ても畜生は畜生の心使いしかしてはおらん。

天の理の誠真実を説いて聞かすためには、本部の者の子供に、大教会の息子に娘に教会の子供は、大方畜生を人として生れ直してある。本（元）の理合いが分かった者は種として残るが、

### 三八

分からん者は二度と二度、人として生れ直さん事にする。これがだめ（最後）の（教えと説いて聞かしてある、と申します。天理に入つて十年の業は天理教のしておる事がよく分かる事でした。何んでも見さして貰い聞かして貰つて来ました。天理教の悪い所を直さんといかんぞ、と申される。今のしておる事をみると徳川幕府と一緒に、本部員、準員、本部青年、先祖の徳つんだ話に花を咲かせて、まるでお公家様みたいに気取つて、大教会長は殿様で、江戸家老は寮長で、何んでも自分の思う通りの事を人に言つて聞かせて、物を運ぶものがべこ／＼と頭を下げて、話はよい話をしてくれるが、こんな事では世界は一列にならんと申します。一列の話をしておる者から一列になるのが本当だと申しております。

昭和四十三年三月二十七日午前三時半、どなたへも一粒万倍のお礼は済んだと申しております。

これからはわしも遠慮はいらんと申しております。本部員準員本部青年大教会長として、いつまでもいたい者は出直つて貰うと申しております。

### 三九

今のお前達のしておる事をわしに言せると、政府自体が間違つておる。政治というものは一列みんなが幸せに暮らして行ける様に考へて行くのが、政治とゆうもの。百姓は冬の寒い日夏のあつい日、朝から晩まで野に立てり、雨にぬれて風に吹かれて、土にまみれ汗にまみれ、力仕事をして出来た。品物は良いものは人に売つて、悪い品物は自分が食うて、足をいたため腰を曲げて働いておる。子供だけはこの難儀をさせまいと思つて、学問をさせて都会に都会へ出して、若い者が百姓を継ぐ者が無い。学問をした者は自分達の都合の良い様に政治を取つて、官公庁におる者は、冬は暖房で夏は冷房で椅子に腰をかけ楽に暮して難儀をする百姓に食う物を作つて貰つて、税金を取つて定年が来たら退職金を貰つて年を取つたら恩給を貰つて、生活の保証が出来て唄を唄う。唄い手は綺麗なものを身につけて贅沢に暮して金を儲けて遊びを仕事にして、勝負にかけて金をも儲けておる者もある。学者金持医者坊主、百姓の立替を言うておく。政治の取り方が悪いから罪を作つてでも豪勢な生活をしようと思ふ。汽車に乗つてもその通り、グリーン席指定席はあいておるのに自由席は五時間も六時間も立ち坊をして、大阪から

### 四〇

青森まで立ち坊をしておる。警察官は利用されて命を捨てみんなから憎まれて泥棒と罪人を追いかけて回して、夜やら昼やらわからん日送つて、都会におる者は百姓に旨い米を作れと文句を言うておるが、自分で作つて食うて見るが良い。戦後は皆んなに作らしてやる。この世界の間違いを正さん事には、何

時までたつても、喧嘩も戦争も絶えん。政治と言うものは平等でなくってはならん。お前たちでは出来て行かん。わしがしてやる。

わしの話す事をよく聞いて貰いたい。一列とは上もない下もない、人を使う人もない使われる人もない、自由で平等で、嘘のない誠実の世界、天理の世の事で、この地球はわしが作ったもの、みんなから一度取り返す。お前たちを見ておると、ここからここまで私の海、ここからここまで私の国との、喧嘩はつかしであげくの果には戦をして、見るに見られん、要らんゴミは火で焼いて地震をさし山も谷も土地も、でんぐり返して均す、南極と北極の氷を解かし、水を入れここからここまでとの見境のつかんようにしてやる。いづれの世界もおんなじ事。一列

#### 四一

の暮らしの心得のない者の土地はでんぐり返して均して、仮令一坪の土地でもでんぐり返して均して、見境のつかんようにしてやる。この地球はわしが作ったものお前たちの勝手をさせんようにする。もしも勝手をするものがあれば、そこへは地震をさせ水を入れて、どこまでも手を入れる。承知をしてくれ。

今のお前たちを見ておると、遊びを仕事にして、勝負をかけて娛しんで金を取って、地位のある者は金のある者は、人を倒しておいてその儲けた金で、自分はゴルフを娛しんで唄を唄う。唄い手は唄を唄うて楽しんで大金をもけて豪勢な生活をしておる。芸術は美術はあくまでも娛しみであつて仕事でも働きでもない。この事は地球の続く限りいついづつまでも戒めておく。働く者は朝から晩まで働いて、あせくせと働いておる。今のままでは働くのが馬鹿らしくなつていやになると、働く事をやめて遊んで食う様になる。人間が人間の肉を食うて、共食をする様になる。此の世の間違を正さん限りこの世界は何時までたつても、喧嘩も戦争も絶えん。

こんな事にならんうちに、畜生のような碌でなしは引取る事にする。

#### 四二

仕事をする時には大人小・人も、皆んな共に働いて、遊ぶ時には皆んなで遊ぶ事の出来る様に、

折目切目を付ける。この地球も宇宙も元はと云えば、このわしのもの。お前たちの身体も貸して、

元はお前たちのものと言うものはない筈の事。お前達は皆んなわしの子供、皆んな一列の兄弟姉妹や。この道理をわかって貰って一粒の米でも分け合うて食うて貰う事にする。木一本、皿一枚、皆んなの物として使うて貰う事にする。この道理の分からん者は残す事は出来ん。わしの言う事を聞かん、この心定め<sup>こころさだめ</sup>の出来ん者は、火水風<sup>かすいふう</sup>の原爆の戦争のさいに引取る事にする。承知をして貰う。戦後はここからここまで私の国私の山私の海私の土地と、争うような人は一人も残さぬ事にする。人の物も取る者も取られる者も無い、人をだます人もだまされる人もない、法律も要らん監獄も要らん、誠真実の世界。戦後は大人でも小人でも老人でも手足のたつものはだれでもが日の出る前におきて朝の空気を吸うて自分の食物は自分で作って食う事にする。地球上に住いをする者はだれでもが朝は三時間は必ず働く事にする。三時間働いたら世界中の者が不自由なしに食うて余る。

今の様に戦争をせずともよい。戦後は金<sup>かね</sup>

を使わん事にする。金を使う事をやめたら、此の世の罪も半分になる。働くものは働いておるのに、なまける者があれば、木の葉のように散つてゆく。わしが引取る事にする。戦後は広い土地で広々と好きな者同志で住んで、お城のような大きな家を皆んなで建て、互い助けあい寄り合うて、その城の廻りには、野菜を作り米を作り果物の世話をして道路を造り工場を建て午前十一時半までは生活の必需品を作り皆んなで話しあい、相談の上で品物を作つて、出来たものは、皆んなで分かち合うて、世界中の人が使へる、チケットのようなものを作り、誰でもが世界中どここの国へも、物見遊山に行き、行つた先で、朝は三時間は必ず働いて、土地所のものをよばれて、午後からは好きな事をして自由に暮らして、学問をしたい者は学問をして学校に行き、美術でも芸術でも好きな事をして、遊びたい者は遊んで、どをしたら陽氣暮らしが出来るか相談をして、話し合う世界を作る。

話し合うて、路を歩いても果物をちぎつて、人が居<sup>ゐ</sup>つても居らいでも、何んでもちぎつて食べて、世話をして貰つたお礼に、チケットを置いて、置いたチケットを取る人も盗む人もない誠實

## 四四。

互い助けあい、寄り合い、平等で自由で、上もない下もない、法律も要らん、監獄も要らん。この地球も宇宙もわしのもの。天の理・元の理が解つて貰つたら、一列の陽氣暮らしの世界が出来来る。この世界を作るため、なにかも一度お前たちから取り返して、この世界を一れつに澄ます。今此の話をなんぼ言つて聞かしてもわしの言う事を聞かんと、原爆の戦争をやる。この戦争を済まさん事には世界は一れつに成らん。わしもみきもよろづもこの時の助けをどうして助け

ようぞと、相談をしておる。世界の子供はみんなわしの子供。火水風の大掃除も済んだら、世界中廻って行く。どこへどんな物を作って直してあるかを言つて聞してやる。どんな事でもしてやる。考へてもやろう。どんな事も聞いてみてくれ、尋ねてみてくれ、お前たち一れつに兄弟姉妹が陽氣に暮らして行ける事なら。今はそれどころではない、原爆水爆ミサイル殺人光線を使つて、火の戦争をやる。この時の助けをせんならん。「とても神名を呼び出せば早くこもとへ尋ね出よ」(九下り目―とても)とわしのもとへたずね来て貰いたい。大和の天理に尋ね来てくれ。この時の助けを手伝うて貰いたい。助けを手伝うてくれる心のある者には、わしが神通力を渡す。わしもみきもよろづ。

#### 四五

も入り込んで話をして助けを取らず。火水風の時どをしたら助るかを、助けられるかを話して聞かす。お助けを手伝うてくれた者には、先が来て必ずお礼をさして貰う。大和の天理に尋ね来てくれ、火水風の時の助けを手伝うて貰いたい。助け人衆を待つ。人間を初めた親がも一人

どこにあるなら尋ねいてみよ”(八―七五)と言わしてある。よろづいんねんを解いて聞かしてある。大和の天理に尋ね来て貰いたい。火水風の助けを手伝うて貰いたい。助人を待つ

大和の天理にたずね来て貰いたい火水風原爆の戦争の時の助けを手伝うて貰いたい。助人を待つ。

戦争は火の戦争ですから、この地球は火だるまの様になると申し、そのためなべの底のように、大きな穴があいてふき出し、南極北極の氷が解けて傾いた地球は真直、になると申しております。戦後はだんだんと地熱が高くなり出して、道ばたの草の根が枯れ、あつちもこつちも地割れが始しまつ



て、河川の堤防が切れ、池湖海岸の堤防が割れ出し、山も谷も崩れ、温泉が吹き硫黄が吹き山潮が吹き出し、日本で四十六度の日が二日続き、海は三十六陸は九十三

#### 四六

一辺んに噴火をすると、申しております。噴火の前が来ますと、海も山も谷も、ただごうごうと、十一時間も鳴り、鳴り止むと同時に地震が始まると申し、朝の六時頃大きな地震があつて、正午から二時までぶつ通し地震がして、此のため南極北極の氷が解けて空に昇り、二日二夜突き鉄砲の様に雨が降り、傾いた地球は真直になると申しております。南極の氷が解けたら八メートルの高さの波が一里つづき、北極の氷が解けたら十一メートルの高さの波が一里半も続くと申し、伊勢湾と紀州の沖で物凄い勢いでぶちこんで来てかちあうと、申しております。

世界の皆さん日本の皆さん、お月さまはこう申されます。

「みき七十九年八十年がなかったらこの天理教の教門は説かさんぞ。」と申され「お大師さまは、今日此の事があるをもって、ひらがなの字を作った。」と申されま

す。

世界の皆さん、原爆の戦争をしますと、星、月、日、赤白の国旗の分だけ、陸地が遺る、と申され、国は二十一国残ると申しております。太平洋大西洋インド洋の小さい小島は噴火と地震と津波とで大方海の中に没すると申しております。原爆の後は二ヶ月後に災害がおこり、一番先に、

ソ連から海の底に沈み、今の陸地の三分の二のこると申します。人口百分の一になって戦争に出た者は一人だけ生きて返ると申しております。

次はインドで、今の陸地の三分の一になり人口百二十分の一になると申します。

日本は噴火と地震と津波と集中豪雨とで所々海の中にぼつすると、申されます、今の人口の半分になると申され、

アフリカも三分の二残ると申され、

エチオピア中央アフリカを境に、コンゴは半分残って、後は海に没すると申されます。チリは今の陸地の半分になり人口七十分の一になると申され、

カナダの陸地も今の四分の一になり、人口百分の一となり、大きな湖がいくつも出来ると申され、  
れ、

メキシコ湾は詰まって湖になると申され、

合衆国にもいくつも湖が出来ると申され人口百二十分の一と申され、

パナマ運河は開くと申し、ブラジルの奥地のインカの氷河の流れておる所は大きな湖になると申し、人口百三十分の一と申し、マダガスカル島半分と申し、

カナリヤ諸島は大方消えると申し、ウズベクトルウクメン湖になると申し、  
デンマークも三分の二残ると申され、

#### 四八

スエーデン半分になると申し、アラスカ、フィンランド、

イタリヤ半分ナポリまでと申され、

アフガニスタン半分ひっこんで湖になると申し、

ラプテフ海カムチャツカ半島残らんと申し、

グリーンランドも消えると申し、バレッツ海ノバヤゼムリヤ半分になると申し、

中国はチベット高原もゴミ砂漠も大きな湖になると申され、中国の人口九十分の一になると申し  
ております。

戦争が始まると駅という駅、街という街、工場という工場は殆ど、ミサイル、原爆、水爆、殺人  
光線を使われるぞと申されております。空からの攻撃をしておいて何万もの兵が上陸もして来  
ると申しております。

万国博（一九七〇年大阪万博）を利用してスパイの調査はすんでおるぞと申しております。

一番大切なのは命です。戦後は政府が亡くなります。金は通用しません、金を取りに入って命を  
捨てないで下さい。命だけ助かったら亦何とかあります。

戦争は火の戦争ですから、今の化学製品を身につけると身体は火だるまになって、たいてい焼け  
死ぬと申しております。

肌着は必ず白木綿を身につける事です。火の戦争ですから汗が出ます、白木綿は光や熱を防げま  
す。白木綿は汗を吸収しますので、熱病に罹る割りが少いと申しております。

#### 四九

衣類は赤黒を着てはいけません。熱を吸収するので熱病にかかると申しております。

天理教の人でも、今の黒いハッピは着てはいかと申しております。短いスカートをはいて居る  
と火の玉、ガラス、その他どんな物が飛んで来るかわかりません。短いスカートをはくと災害が  
大きいと申しております。男女共頭の髪の毛をのばしておると、ぼうぼうと焼けます。頭を焼く

と助からんと申しておしております。戦争が始まったら、頭には木綿の物を何にかを被<sup>かぶ</sup>る事で  
す。何時でも逃げられるように身体を整えておく事が肝心です。食事は三度三度必ずたべておく  
事です。何時たべられるか分かりません。子供や家内が可愛かったら自分の家に帰り小さな慾を  
捨てて子供や家内を守る事です。自分も助かります。

南極と北極の氷の解けた後は、雨が多くなりますので、じゃが芋とか麦は作れませんので、世界  
中の人がお米を食べる事になります。主に餅米をたべる様になると申しております。

りんごとかネギ、茄子のような物は作らん事になります。麻葉や煙草のように毒草の根もたつと  
申しております。ブラジルはせかい一れつの話しは後になります。

## 五〇

字もひらがなの字が、世界の字になり、世界中の人々が日本語を話す事になると申しておりま  
す。中国はひらがなの字を使うのが世界よりも後になりますが、皆なの仲間入りをすると申して  
おります。戦後は地球がまわると一緒に地震で沈んだ土がしだい／＼に深海を埋めて、太平洋に  
陸地が五つ、大西洋に三つ、南極は今の陸地の二倍半の大陸となって、煮ても焼いても生でもた  
べられる果物が、ゆさ／＼と生<sup>な</sup>つてとこ夏<sup>なつ</sup>の国となつて、大方日本人が住むと申しておりま  
す。北極は使わんと申しております。

海岸には防風林を植えて、魚やえびでも海岸の近くで取れて、果物や野菜は不自由のない様にな  
つて、日本を中心に世界が治まって行くと申しております。

## 五一

原子の火傷と熱病の薬は、正月、三月、五月、七月七夕に、供へる品物はすべて火傷の薬。

神代の昔から原爆の戦争の事が分かっておった。そのため正月、三月、五月、七月七夕をさせてあ  
る。

助け、一条神、一条、原子の火傷の薬は、麦飯、白飯しら折赤飯いづれも何んぼ熱くつてもよい、飯  
粒をそのまま早く火傷に塗る。火傷の部分より広く厚く貼る。痛みが止る。白紙を貼る堅くなっ  
たら水で濡らして取って又貼る事。

一番良いのは、麦飯をつぶして、山芋、長芋、馬鈴薯、さつま芋、玉葱、梨、白瓜、胡瓜等、い  
づれも皮ごと生で おろしてよく混ぜて、火傷の部分より広く厚く塗る事。白紙にぬって貼る。か  
たくなつてはずれたら亦貼る事。白飯メリケン粉玉葱梨等いづれもおろしてよく混ぜて白紙に塗  
ってる事。餅はやわらかくしてはる事。餅米は生をつぶして塗る事。餅米は水につけてつぶして  
塗る事度々、

今までに記した品物は、どれとどの品物を混ぜてもよい。早く塗る事。火傷の熱を取る。

山芋、小芋、里芋、馬鈴薯、さつま芋、玉葱、梨、白瓜、胡瓜、等は、おろして塗っても効く。

## 五二

火傷の部分に小便をかけても良い。赤土を塗っても効く。

なめくじらは生きたまま、火傷の外側から塗る事。光の入った時も同様

薬を焼いて、笹も焼いた灰を塗る。薬灰だけ、笹灰だけでも良い。囲炉裏の灰も薄く塗る。薬を  
煎じて飲むと決して死なない。塩が切れたら笹の葉をしがむ事。

身体に出来物が出来たら、薬を焼いて何んべんも薄く塗る事。

喉がはれてものが言へない人は、櫛の生汁を飲むと口がきける。櫛の生葉をすりつぶして水を入れてその生汁を飲む。櫛の葉十二枚、笹を十二枚、松葉十二本、水三合を一合まで煎じて、盃二つ三つ飲む。朝昼晩、みみず三匹、水三合を一合に煎じて盃に二つ三つ飲む。  
うなぎも同様。

皮膚が痛む時には赤土を塗る事。落は葉も茎も根も生汁を飲む。煎じて飲んでも熱が取れる。赤鯉の生血を飲むと熱が取れる小便をかけてもよい。

菖蒲の生汁を飲むと熱が取れる。菖蒲葉二十本をよくたたいてつぶして塩を一つかみ入れ、風呂に入ると癩病でも治る。しばらく入る。出来物が出来た時にも良い。煎じて飲むと効く。

### 五三

橙を煎じて水三合を一合に煎じる。生麦を煎じても効く。黍きびは葉も茎も皮も実も煎じて飲む。

譲り葉は生汁を飲む。譲り葉、南天、橙、つるし柿、薬、生梅、いづれも煎じても効く。

青梅はおろして少し塩を入れてたべる事。漬けた梅の種をしゃぶっても良い。

梅、橙、赤つつじ、桃、白菊、赤バラ、白バラ、茄子、胡瓜、白瓜、山桜、藤、その時実のなる

花も葉も茎も生汁を飲む。煎じても効く。

落は葉も茎も根も生汁を飲む。煎じても効く。

椰子の葉の生汁。

笹の葉をたたきつぶして少し水を入れて生汁を飲む。

キーネキニネとも言う生汁を飲む

ハイビスカス、美男かづら、甘茶の花も葉も茎も生汁を飲む。煎じても効く

カタツムリ、ナメクジラ、黒焼にして水で飲む。

白樺の皮を煎じて飲む。浜なす、おだまき、花も葉も茎も生汁を飲む。煎じても効く。

この記は昭和三十八年七月一日しるす